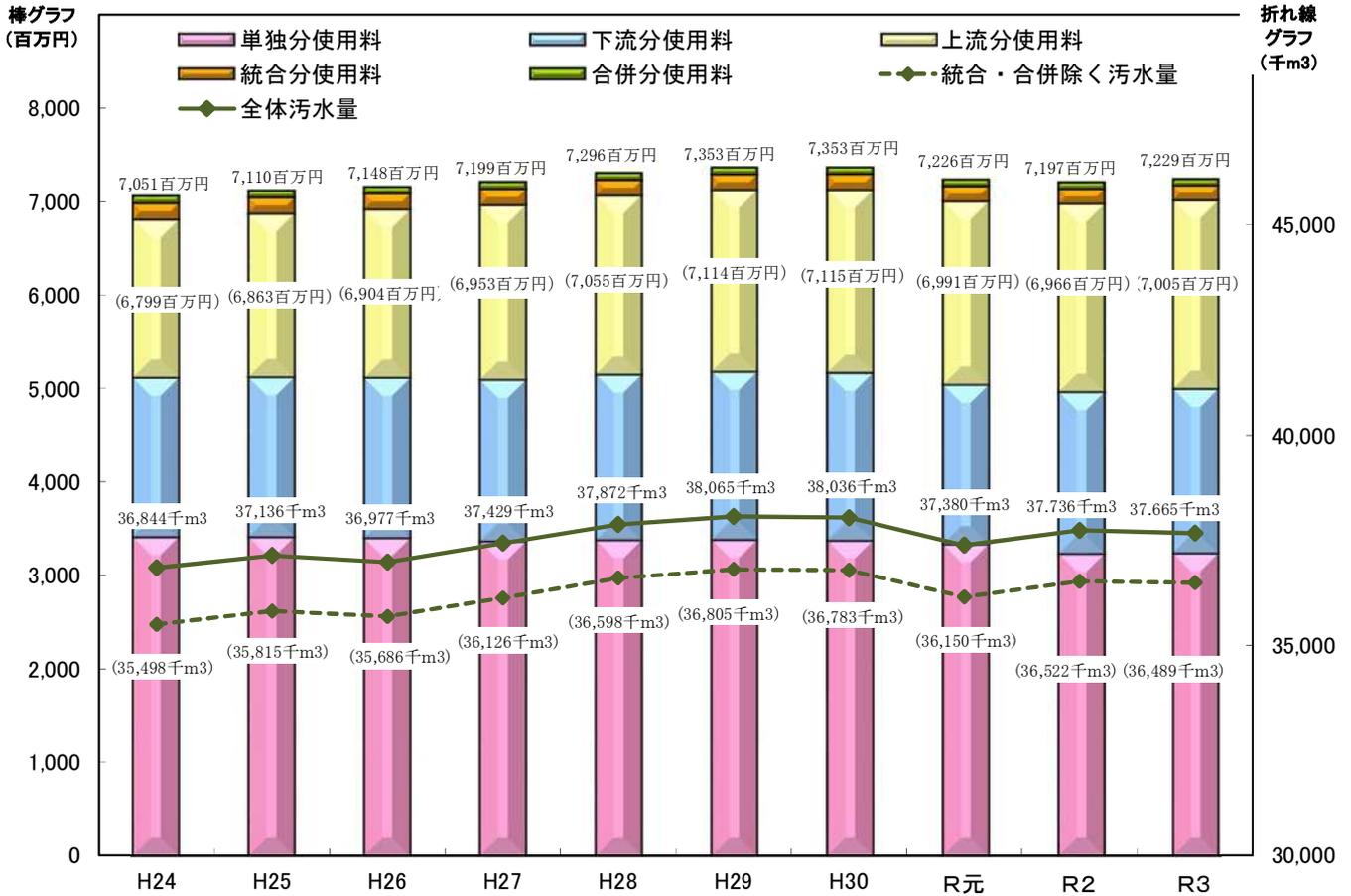


下水道使用料の推移

令和3年度の汚水量は前年度から減少したが、逆に下水道使用料は約72億2,900万円で、前年度から約3,200万円の増収となった。

これは、水道料金と同様に、 m^3 当たりの下水道使用料単価は汚水量が多いほど高くなることから、水道使用水量が、一般家事用が中心の口径20mm以下は減少したが、逆に業務用が多い口径30mm以上が増加したことが増収の要因として考えられる。

年度別 下水道使用料・汚水量推移



下水道使用料推移 (税抜き)

単位：百万円

年度	公共下水道			合計 (A)	対前年増減	汚水量 (千 m^3)	統合分 (b1) 農集 小規 戸無	合併分 (b2) 信州新町 中条	汚水量 (千 m^3)	総合計	
	単独	流域下流	流域上流							使用料 (A)+(b1)+(b2)	対前年増減
H24	3,408	1,703	1,688	6,799	121	35,498	175	77	1,346	7,051	120
H25	3,408	1,709	1,746	6,863	64	35,815	172	75	1,321	7,110	59
H26	3,397	1,711	1,796	6,904	41	35,686	171	73	1,291	7,148	38
H27	3,362	1,728	1,863	6,953	49	36,126	173	73	1,303	7,199	51
H28	3,375	1,770	1,911	7,055	102	36,598	167	74	1,274	7,296	97
H29	3,378	1,796	1,940	7,114	59	36,805	166	73	1,260	7,353	57
H30	3,371	1,791	1,953	7,115	1	36,783	166	72	1,253	7,353	0
R元	3,330	1,707	1,954	6,991	△124	36,150	164	71	1,230	7,226	△127
R2	3,231	1,728	2,007	6,966	△25	36,522	161	70	1,214	7,197	△29
R3	3,236	1,756	2,013	7,005	39	36,489	156	68	1,176	7,229	32

※ 特定環境長野分については、各処理区に加算